

北インド、ラダックヒマラヤのインダス縫合帯に分布するヘミス礫岩中のチャート礫から得られた放散虫

Radiolarians from chert clasts in the Hemis Conglomerate distributed along the Indus suture zone, Ladakh Himalayas, northern India

小嶋 智 [1]; 高 祐子 [2]

Satoru Kojima[1]; Yuko Taka[2]

[1] 岐大・工・社会基盤; [2] 岐大・工・社会基盤

[1] Dept. of Civil Eng., Gifu Univ.; [2] Dept. Civil Eng., Gifu Univ.

北インド、ラダックヒマラヤのインダス縫合帯には、ネオ・テチスの海洋底が沈み込む際に、ユーラシア大陸に付加した海洋底玄武岩およびその上に堆積した遠洋深海性チャートなどが散点的に保存されている。しかし、その多くはインド・ユーラシアの衝突の際に変形・変成し、ネオ・テチスの消長や海洋環境に関する情報を読み取ることができるのは稀である。そこで我々は、インダス縫合帯に分布するモラッセ堆積物中に保存されているチャート礫中の放散虫を検討することにより、ネオ・テチスの消長を解読する試みを続けている。本講演では、チャート礫中の放散虫化石群集とその年代について発表する。

研究対象とした地層は、ラダックの中心都市レー周辺に分布するヘミス礫岩で、年代決定に有効な化石は産しないが、その堆積年代は層序関係から始新世後期～漸新世前期と推定されている。2001～2006年のシーズンに、レー周辺の4地域から合計200個以上のチャート礫を採取した。現在、約3分の1の礫の処理と化石の抽出、および電子顕微鏡観察を終了した。その結果、1試料から三畳紀後期の、1試料からジュラ紀中期の、2試料からジュラ紀後期の、3試料からジュラ紀後期～白亜紀前期の、9試料から白亜紀前期の放散虫を得た。発表では、今後得られたデータも併せて報告する。